

学校経営推進費評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立富田林支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	(1)「見てわかる授業」による児童・生徒の授業満足度の向上 (2)教員 ICT 機器活用増加と指導力・授業力の向上 (3)地域の学校と連携し ICT 機器を活用した授業の取組みの提案や発信
計画名	見てわかる 実践みらいのこくばんプロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期目標	<p>1 個に応じた教育活動の推進と専門性の向上</p> <p>(1) 一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」「主体的に意欲的に取り組める授業」をめざして、ICT の活用や公開授業・研究授業などを通して、授業力の向上を図る。 <p>(2) 支援教育に関する専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラムをはじめ発達障がいの児童・生徒の指導において、アセスメント、指導内容・方法を充実させ、知的障がい支援学校としての専門性の向上を図る。 <p>2 地域と連携した安全、安心で魅力ある学校づくり</p> <p>(1) 南河内地域の支援教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区内の市町村教育委員会や地域の小中学校・高等学校及び保育園・幼稚園・子ども園等の就学前施設との連携を拡充し、学校行事や交流及び共同学習、研修会・連絡会を通して障がいのある児童生徒の理解を深め、南河内地域の支援教育力向上に努める。
事業目標	<p>【現状と課題】</p> <p>各授業主担者の多くが iPad やプロジェクターなどの ICT 機器を活用して教育アプリなどの視覚支援を用いた授業づくりに取り組んでいるが、機器に限りがあり、活用したくてもできない現状がある。具体的には、小 13、中 17、高 18 の計 48 クラスに対してプロジェクター 3 台、書画カメラ 1 台、大型テレビ 15 台で授業を展開しており、特別教室には常設の ICT 機器設備はない。短焦点プロジェクターは 1 台しかなく予約が殺到し、大型テレビも老朽化や故障が多く活用が難しくなっているのが現状である。</p> <p>【事業（プロジェクト）概要】</p> <p>各教室にプロジェクターを配置することができれば、今以上に視覚支援を用いた授業づくりを活発に行うことができ、特別教室にも ICT 機器を整備すれば、音楽の授業では大きなスクリーン（現在は、白布を壁に張り代替している）で迫力のある授業づくりができる。また、作業系の授業で書画カメラを活用すれば手元の細かな作業を生徒にわかりやすく指導することができる。このプロジェクトで各普通教室や特別教室にプロジェクターや書画カメラを整備することで中期目標に掲げる「わかる授業」「主体的意欲的に取り組める授業」を強力に推し進める。</p> <p>(1) 「見てわかる授業」による児童・生徒の授業満足度の向上をめざす。</p> <p>(2) 教員の ICT 機器活用率増加を図るとともに、公開授業での実践発表や全校研究会での研究発表をおこなうことで教員間の活発な意見交換をおこない、教員の指導力・授業力の向上をめざす。</p>

	(3) 地域の学校との連携をおこない、ICT 機器を活用した授業の取組みの提案や発信をおこなうとともに、第三者の評価を得ながら授業改善をおこなうことで知的障がい支援学校の専門性の向上と指導方法の充実をめざす（2年め以降）。
整備した設備・物品 (数量)	【教室及び特別教室】 短焦点プロジェクター(33台)、ホワイトボードペン対応スクリーン貼り付けタイプ(30本)、スクリーンケース(30本)、吊り下げスクリーン(3台音楽室1:音楽室2:調理室)、書画カメラ(7台)、Lightning-HDMI変換アダプタ(33個)、HDMIケーブル(31本)
取組みの 主担・実施者	主担： 視聴覚情報処理部（研究部、地域支援部も連携） 実施者： 全教員
本年度の 取組内容	機器設置場所および管理方法の検討、職員への周知（～7月）、機器使用に向けた教員研修（8月）、富田林市教育支援研究会におけるICT機器を活用した授業提案（8月）、府教育センターパッケージ研修（ICT機器を活用した授業づくり）、授業実践開始（9月～）、使用状況の調査（各学期末）、視聴覚情報処理部員による公開授業での実践発表と研究協議（12月）、生徒アンケートの分析と情報共有（2月）、全校研究会における研究発表（2月）、実践発表・研究発表に伴う教員用アンケート（2月）、次年度に向けた課題・教科別活用方法の検討（3月）
成果の検証方法 と評価指標	1 児童生徒への聞き取りを含むアンケート評価（4段階評価） （『楽しく授業に取り組めた』『授業がわかった』肯定的評価を70%以上） 2 ICT機器活用公開授業・研究発表会において教員向けアンケート評価（4段階評価） （『参考になった』『活用したい』肯定的評価を80%） 3 教員によるICT機器1回以上利用率(100%) 4 地域の学校向けの実践報告によるICT機器活用における授業づくりの取組みアンケート（4段階評価） （『参考になった』『活用したい』肯定的評価を70%）
自己評価	1 児童生徒への聞き取りを含むアンケート評価では、児童生徒にアンケートをとった結果『楽しく授業に取り組めた』を4段階評価で肯定的評価を87%、『授業がわかった』の肯定的評価83%を得ることができた。……………(◎) 2 ICT機器活用公開授業・研究発表会において教員にアンケートをとった結果、『参考になった』について4段階評価で肯定的評価94%、『活用したい』の肯定的評価87%となった。……………(◎) 3 教員によるICT機器1回以上利用率は、100%を達成した。……………(◎) 4 地域の学校の教員向けに実践報告によるICT機器活用における授業づくりの取組みアンケートをとった結果、4段階評価で『参考になった』の肯定的評価85%、『活用したい』の肯定的評価88%となった。……………(◎)
次年度に向けて	(1) 「見てわかる授業」によって児童・生徒の授業満足度の向上をめざすという目標については、機器の導入が遅れ3学期からのスタートであったが、プロジェクターやICT機器を活用した授業において、児童生徒の意欲的な授業参加が見られた。しかし実施期間がまだ短く、新しさに対して高い評価が出たと考えている。来年度から本格的に取り組み「見てわかる授業」づくりを学校全体で充実させていきたい。 (2) 教員のICT機器活用率増加を図るとともに、公開授業での実践発表や全校研究会での研究発表を行う。教員間の活発な意見交換をおこない、教員の指導力・授業力の向上をめざす。教員の多くが今回の機器の導入を待ち望んでおり、意欲的に取り組んでいる。評価目標は達成しているが、今後はICT活用について教員間で活発な意見交換を進めていくことが課題だと考えている。来年度も公開授業や授業交流を通して教員の更なる指導力・授業力の向上をめざしたい。 (3) 地域の学校との連携をおこない、ICT機器を活用した授業の取組みの提案や発信するという目標については、富田林市教育支援研究会におけるICT機器を活用した授業提案において、

高い評価を得た。来年度も引き続き充実した授業提案をおこなうと共に、府内の支援学校や地域の学校に向けて公開授業を実施していきたい。